

鯨川村 みんなの議会云だより

No
174

令和5年11月

題字：鯨川小学校

いし い たいが
6年 石井 泰嘉さん



9月定例会

令和5年度補正予算・令和4年度決算認定など可決	2~4
一般質問に7議員登壇	7~13
インフォメーション	14
ふるさと鯨川への想い	16

会計別決算状況

会計別	歳入	歳出	
一般会計	36億6,673万円	33億9,250万円	
特別会計	国保 事業勘定	3億9,048万円	3億8,590万円
	直診勘定	6,998万円	5,986万円
	簡易水道事業	1億394万円	1億26万円
	村営バス事業	1,008万円	931万円
	集落排水事業	4,438万円	4,288万円
	介護保険	5億3,365万円	5億823万円
	学校給食センター	9,604万円	9,150万円
	後期高齢者医療	3,742万円	3,732万円
	合計	49億5274万円	46億2780万円

主な事業（一般会計）

役場庁舎空調設備改修工事	1億2,219万円
若者未来創出会議PR動画作成	85万円
若者未来創出会議アドバイザー業務	199万円
さめがわ魅力発信事業業務	597万円
手まめ館加工品製造動画作成業務	73万円
大房地区移動通信用鉄塔施設整備工事	1,480万円
地域公共交通協議会負担金	802万円
村民保養施設薪ボイラー更新工事	500万円
まめな暮らし応援商品券発行業務	6,243万円
ほしぞら映画祭運営業務	403万円
さめがわファンクラブ運営業務	88万円
鹿角平観光牧場排水路整備工事	1,907万円
道路及び河川維持補修工事	2,886万円
防災マップ作成業務	407万円
公民館2階トイレ改修工事(洋式化)	129万円

決算審査意見

代表監査委員 森 洋
監査委員 北條 利雄

● 一般会計・各特別会計ともに黒字決算

決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率については、実質公債費比率のみが該当し、6.8%で基準値を下回り健全財政を堅持した。

● 収入未済額の徴収

村民税、固定資産税、国保税、簡易水道使用料など未収金が今後も増加傾向にあるものと推察される。収入未済額の解消に向け、引き続き納入に対する啓発・確保に努めていただきたい。

● 厳しい財政状況の中、「自立の村づくり」に向けて、今後も引き続き効率的な財政運営を図り、村民生活向上のため、各種事業の推進に努めていただきたい。



9月定例会の
あらまし

令和5年第6回議会定例会は、9月19日から25日までの7日間の会期で開催されました。
今定例会は、報告2件、条例の一部改正や補正予算のほか、令和4年度会計の決算認定、人事案件など27議案が提出されました。
また、一般質問では7名の議員が登壇し、様々な問題を取り上げ、村政について質しました。
提出された議案は、全て原案どおり可決・同意しました。



令和4年度
決算

黒字決算を認定

**補正
予算
一般会計**

11月から園児、児童・生徒の 給食費を無償化に



会計別補正予算

会計別	補正前の予算額	補正後の予算額	
一般会計	29億7,043万円	32億8,267万円	
特別会計	国保 事業勘定	4億1,568万円	4億2,249万円
	国保 直診勘定	5,182万円	5,666万円
	簡易水道事業	8,538万円	8,919万円
	村営バス事業	1,126万円	1,202万円
	集落排水事業	4,139万円	4,328万円
	介護保険	4億8,139万円	5億782万円
	学校給食センター	9,119万円	9,573万円
	後期高齢者医療	3,855万円	3,865万円

主な事業（一般会計・歳出）

積立金	財政調整基金	1億2,921万円
	公有施設整備基金	4,000万円
	教育施設整備基金	4,000万円
デマンド交通交通実証運行業務委託		917万円
地域活性化起業人協定負担金 (DXを推進し、デジタル技術を活用し、住民サービスの向上を図るため起業人2名を受け入れる経費)		640万円
物価高騰対応生活困窮世帯緊急支援事業 (令和5年度住民税非課税世帯のうち、高齢者世帯等に1世帯あたり6,000円を給付)		108万円
村道維持補修工事(村内一円8路線)		924万円
道路新設改良費(越虫川護岸工事設計業務委託)		300万円
道路新設改良費(越虫川護岸工事工事請負費)		2,000万円
学校給食センター特別会計への繰出金 (給食費の無償化による財源不足分を増額補正)		230万円

人事

教育委員会教育長

藤田 充瑠町
(まこと)

◆任期 令和5年10月1日～
令和8年3月31日

教育委員会委員

阿久津 光市 (あきつ こういち)
(再任)

◆任期 令和5年10月1日～
令和9年9月30日



討論

議案 第52号

令和5年度鮫川村 一般会計補正予算(第4号)

反対

遠藤 貴人 議員



村長就任が8月31日であり、議員各位が上程された補正予算書を受け取ったのが9月中旬だったことから、給食費無償化は就任後の数日で決定されており、次年度以降の財政計画が不透明である。給食業務を預かる給食センター所長、並びに担当課である教育課が、施策の方針を村長から充

分に示されていないことが委員会調査で判明した。PTAなどの団体を通じて、保護者への説明やアンケート調査などを何もしていないことや、支払った給食費は、村内の生産者や社会福祉法人などの経済循環になっていることの理解が進んでいない。

選挙公約なので、ぜひ実現していただきたいが、これらのことから、さらなる議論の醸成が必要であると判断し、本補正予算案に反対の討論とする。

賛成

緑川 茂 議員



学校給食費の無償化については、過去にも数回議題に上り、十分な議論を重ねてきた経緯があり、村長も議員の時から無償化を訴えていた。今、本村は人口減少と少子化、さらに若者世代の村外への流出問題は、喫緊の課題となっている。この対応策として、子育て世代に対する支援が

必要であり、とりわけ学校給食費の無償化は直ぐに出来る対策である。

他の町村と比べ人口減少率が高い現状に危機感が足りない。親の負担を軽減して子育てしやすい環境を整えることは、大変重要なことである。

この支援策に若い世代、特に子育て世代は非常に高い関心を持って推移を見守っている。こういった村の現状を踏まえて、出来ることから一刻も早く実施すべきである。

審議結果(主な条例・予算)

○=賛成 △=反対

議案名	窪木 浩一	本郷 弘義	青戸 義之	森田 重男	森 隆之	遠藤 貴人	北條 利雄	緑川 茂
【議案第51号】 鮫川村特産品加工施設等設置条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○
【議案第52号】 令和5年度鮫川村一般会計補正予算(第4号)	△	○	○	○	○	△	○	○
【議案第59号】 令和5年度鮫川村学校給食センター特別会計補正予算(第2号)	△	○	○	○	○	△	△	○
【議案第61号】 村道路線の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○
【認定第1号】 鮫川村一般会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○

※上記以外の提出議案は、全員賛成にて可決承認

議案調査

提出議案を徹底調査



事業内容の説明を受けた合同議案調査

**学校給食センター
特別会計繰出金に
230万円**

令和5年度一般会計・特別会計補正予算および令和4年度一般会計・特別会計決算認定を総務文教・産業厚生両常任委員会で調査しました。

総務文教 常任委員会

問 学校給食センター特別会計繰出金 230万円

答 給食費の無償化による財源不足増額補正

問 デマンド交通実証運行業務 917万円

答 村が実施するデマンド交通実証実験費用

問 地域活性化起業人協定負担金 640万円

答 村のDXを推進し、デジタル技術を活用して村民サービスの向上を図る目的に起業人2名を受け入れる費用

産業厚生 常任委員会

問 道路維持補修工事費 924万円

答 村道8路線維持補修工事費用

問 道路台帳整備業務費 248万円

答 国道289号線渡瀬バイパス完成に伴い、村道路線に移動があったため

問 道路新設改良工事請負費 2000万円

答 越虫川護岸工事に要する経費

現地調査



旧交流施設の現状確認



老朽化が進むトレーニングセンター



大規模な地すべりが発生した村道内ヶ竜滝ノ下線



鹿角平の水源調査

議員 7人が登壇 スバリ!! 村政を問う!

P 7



もり たかゆき
森 隆之 議員

- 鹿角平観光牧場

P 11



あおと よしゆき
青戸 義之 議員

- 情報公開

P 8



みどりかわ しげる
緑川 茂 議員

- 宗田村政の所信
- 子育て支援策


P 12



ほんごう ひろよし
本郷 弘義 議員

- 子育て支援策
- ヤングケアラーの実態

P 9



ほうじょう としお
北條 利雄 議員

- 村長の基本理念、政治姿勢

P 13



えんどう たかひと
遠藤 貴人 議員

- 期待に応える政策

P 10



もりた しげお
森田 重男 議員

- 犯罪被害者の見舞金制度

一般質問は、議員の日常生活を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。

出席議員



まえだ たけひさ
前田 武久 議長



くぼ けいいち
窪木 浩一 議員



森 隆之 議員

問 鹿角平の整備計画と水源の確保は

答 オートキャンプ場を推進し ボーリングでの水源確保に努める



新しい施設や水源確保が必要な鹿角平観光牧場

質問

鹿角平観光牧場について、今後の整備計画と今年度実施予定の整備は。

答弁(村長)

今年度は、森林環境譲与税の活用により水路沿いに転落防止柵の整備を行った。今後の整備計画は、令和3年

再質問

度には鹿角平観光牧場総合整備基本計画を策定し、整備の方向性や観光施設としての機能強化の方針を定めている。同計画には、オートキャンプサイトや林間キャンプサイト、アスレチックエリア等の新設のほか、老朽化している管理棟の建て替えなど、段階的な整備計画が示されている。これらの整備に向けて、地方創生拠点整備交付金の活用を考えていたが、残念ながら採択とはならず、財源の確保が最大の課題となっているのが現状。整備には多額の費用を要するため、引き続き有利な交付金や補助金等を活用すべく、庁内各課等や関係機関と連携を図りながら情報収集に鋭意努力する。

質問

今年の夏に溺水したとの話を聞いた。施設の水源確保の状況は。

答弁(村長)

水源確保については、8月に貯水タンクの水位が著しく低下したが、

再質問

鹿角平観光センターの速やかな対応により水位は回復した。今後の対策は、来年度に向けて新たな水源を確保するための予算を計上したい。財源は、ふるさとづくり基金を活用したいと思う。水源確保については優先的に改善をしたい。

答弁(村長)

私もオートキャンプ場は多くの方から意見をいただいている。ある国会議員の方からも意見をいただいた。交流人口・関係人口を高めるためには、施設の充実が重要と思うので、前向きに推進していきたい。

答弁(村長)

鹿角平の新たな水源確保は重要である。今までも、度々湧水があったという話は聞いている。新たなところをボーリングして、計画的に費用を組んで整備しなければならないと思うが。

全くそのとおり。あそこは高地にあるため水の出が悪い、これは前から承知している。ボーリング、これも大変大事な施策だと思う。あの近辺を一回ボーリングしてみて、水が出るか出ないか確認して検討をしたい。



問 宗田村政の所信は

答 村民の声を第一に 対策対応を進める



質問に答える宗田村長

質問

少子高齢化が進み、人口減少対策など課題が山積している中で、宗田村政がスタートした。我々議決機関としても村民の豊かな生活を願う、わが村を良くしたいという思いは皆同じである。執行機関と議論を重ねながら住みよい村をつくる為に力を合わせて取り組む考えであるが、村長になられての抱負と今後の村づくりの政策は。

答弁(村長)

村づくりは人を育てること。WBCの栗山監督によると、日本資本主義の父と言われた渋沢栄の著書「論語と算盤」を実践すればどんな組織も強くなるとの教えを基に、人の話に耳を傾けられる人が結果を出す。押し付けられないで選択肢を提案するのが指導者、適所に人を置き、その場所で個性を磨くことである。

質問

よる防犯・防災対応の問題、就農人口の減少による田畑の荒廃対応、中心地の空洞化に伴う空き家の対応など、問題が山積しており、様々な判断が求められる。村民の声、気持ちを第一に考え、議会、職員と一緒にこれらの対策・対応を進めていく。職員には、住民サービスのプロとしての意識を持って村民の為に働いて頂きたい。また、意欲のある職員の様々な意見に耳を傾け、ボトムアップの体制を作っていく。

問 子育て支援策は

答 早急に給食費の無償化を実施する

質問

人口減少対策の一つとして子育て支援を充実させる施策が必要で

ある。親の負担を軽減し、子育てしやすい環境を整えることは、若者世代の村外への流出防止の為に大変重要なことである。村長が公約に掲げられた学校給食費無償化についての具体的な考えは。

答弁(村長)

村は年々人口減少が進み、特に若者の村外流出が多くみられる中、少子化対策は緊急の問題であり早急な対応が迫られている現状である。

意見

公約されたことが早速実施に向けて進められ、その迅速な対応は大いに評価できる。村長が掲げられた公約を一つ一つ実践し、村民の期待に応えられるよう希望したい。

再質問

無償化に伴う費用はいくらか。また、その財源は。

答弁(村長)

財源は予備費から充てたい。

答弁(副村長)

小・中学校の給食費は約230万、こどもセンターの米飯給食費に約30万を予定。合計で約260万の予算を計上している。

さらに、WBC栗山監督が実践した「論語と算盤」を参考に組織の在り方、指導者の在りようを構築していく。

将来を担う若者の村外流出は、村の存亡に関わる大きな問題である。子育て支援の一環としてこどもセンターの米飯給食の無償化を含めスピード感を持って対応したいと考えており、今定例会に提案した一般会計補正予算、学校給食センター特別会計補正予算において関係予算を計上した。



北條 利雄 議員

問

村長の基本理念と政治姿勢は

答

「真実一路」に邁進

質問

選挙の中で掲げたマニフェスト(公約)の実行と具現化、村政運営に対する基本理念と政治姿勢は。

- ①「真実一路」の言葉に託される思い。
- ②「誠実・実行」、村民の期待に必ず応えるところとした「5つの施策」の詳細。
- ③後援会の届出と政治資金規正法の手続きへの事実確認。

④後援会討議資料の総括と解決や改善の方向性。

答弁(村長)

- ①気持ちに偽りなく真実に、生まれ育った村を守る。里山、自然環境を後世に残す思い。将来に確かな方向性を定め、地に足をつけて村づくりに邁進。
- ②給食費の無償化や放課後児童クラブ体制



行政の中心 役場庁舎

を整備し子育てを支援。
●村を支えてきた高齢者に報いる施設の整備を充実。

●中心地ににぎわいを取り戻す施策が重要であり活性化の起爆剤。

●シルバー人材センターの存在は大きい。人は働いた対価、仕事に合った対価が必要であり、現状の対価を検討。

●人のつながりが大事、行政区への財政支援を充実させ、区民の身近な行事、活動を支援。

③後援会組織の公職選挙法並びに政治資金規正法の法的手続きを適正に処置。

④選挙は、互いに政策を提示し、審判を受けるのが根底。有権者を惑わすもの、何の根拠もない誹謗中傷は、民主主義を尊ぶ村民の恥。

再質問

①施策を具現化するため短期・中期・長期の計画が必要。財政力からして財源措置の確保が重要。総合戦略との整合性、見直しへの施策の関係性は。

②設立届がない後援会組織。宗田雅之後援会が、なぜ届出や手続きが出されていないの理由がわかりかねる。今後の処置や対応は。

③全ての行政事務事業に関わりを持ち、議論を行い、指摘も提言も行い、その結果が、賛成や否決の議会判断がある。議員であっても、村民であっても、議案に対する見方も考え方も異なる。立場も理解度や認識も異なる。議会での判断の結果は事実であることも、異なることも、解説もできるもの。表現は自由であるが、誹謗や中傷ともとられる文言も。職員への意欲や働きがいまで。指揮監督する大切なスタッフ職員である。この場を通じたの思いは。

答弁(村長)

①最大の施策。その手当て、予算、これは国の補助事業、財政調整基金などを利用。見直しを図って、議員と職員に相談し進める。
②適正に処置したい。

意見

後援会の届出、政治資金規正法の手続きは、村民の皆さんに公開する基本中の基本。政治資金を公開することで、政治活動の実態を村民の前に公開して、言わばガラス張りの中、不透明の監視と批判の下に置くことで政治活動の公明を確保するもの。政治資金の授受を量的・質的に規正することで、積極的に社会的・倫理的な正義の実現を期することにより、政治活動の公正を確保することである。この趣旨を理解し「適正に処置したい」を早急に進めるべきである。

次のページは

一般質問

森田重男議員・青戸義之議員

問

犯罪被害者に対する 見舞金制度について

答

被害者に寄り添った支援に努める

森田 重男 議員



質問

福島県では、犯罪被害者を支援する特化した条例を昨年4月に制定した。国の犯罪給付制度とは別に犯罪被害者に見舞金を支払う制度が徐々に広がっている。条例を制定した市

町村は、4月1日現在では17市町村あるが、条例ではなく、見舞金交付要綱を定めた市町村は4市町村になっており、県内21市町村が条例や要綱を制定している。本村においても、条

例・要綱等を制定すべきと思うが、村長の考えは。

答弁(村長)

本村においては、平成10年7月犯罪被害者への多様なニーズに応えるため、被害者支援に

関わる関係機関、団体で構成する県レベルの福島県被害者支援連絡協議会へ参画し、関係機関相互間の情報交換、広報啓発活動を推進している。

村では、被害者等支援総合的対応窓口を住民福祉課内に設置し、総合的に対応できる体制をとっている。犯罪被害者に対する見舞金制度は、条例や要綱を制定していない。

村の現状は、総合的対応窓口を設置しているが、相談はない状況。しかし、村民にいつ被害者となる事案が発生するかもしれない。県の条例に即して役割を果たす考えであり、被害者の方々などへの居住支援見舞金制度の創設に向けた検討を行うなど被害者に寄り添った支援に努める。

答弁(住民福祉課長)

今後検討して、できる限り早急に取りかきたい。

再質問

国の給付金制度は、受給まで半年以上かかるが、現条例では居住地の市町村に申請すると、早ければ1か月で受

犯罪防止に努めている棚倉警察署





青戸 義之 議員

問 情報公開条例、規則は

答 積極的に開示する



質問

村では、情報公開条例が制定されているが、指定管理者の情報の公開に関する条例や規則等を定めているのか。

また、自治体の予算が適正に執行されているかどうかを最終的にチェックし、行政への住民参加を進めていく上でも自治体の情報公開

は重要である。行政と住民のより一層の信頼関係を築く上で情報の公開が必要であり、それが住民参画の地域づくりとなり、開かれた行政となるのではないか。何より自治体の持つていく多くの情報を住民に提供することが求められる。情報の公開についてのどのように捉えているのか。

答弁(村長)

本村には、平成13年4月1日から鮫川村情報公開条例とその条例の施行に関し、必要な事項を定めた村長が保有する公文書の開示等に関する規則が制定されている。

その目的については、「村が保有する情報の一層の公開を図り、もって村の諸活動を村民に説明する責務が全うされるようにするとともに、村民の村政への参加の下、公正で開かれた村政の推進に資することを目的とする。」としている。

また、条例を適用す

る上での文言の定義が定められており、この条例が適用される実施機関については、村長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、農業委員会、固定資産評価審査委員会及び議会とし、また公文書の定義として、「実施機関の職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録であって、当該実施機関の職員が組織的に用いるものとし、当該実施機関が保有しているものをいう。」

この条例、規則においては、指定管理者が保有する文書の開示に関しては規定していないが、実際には村の規定に近い形で施行している。

再質問

公的な施設を管理している指定管理者の情報公開については、住民のニーズに的確にこたえられるように、情報公開制度の内容を常に充実させていくことが必要では。公的機関が保有する情報は、村民の共

有財産である。住民の誰もが知りたいと思うときに、知る権利を法律や条例、制度的に保障し、情報の公開に義務づけしていくことが必要では。

答弁(総務課長)

村民の皆さんへの情報発信は大事なことである。知りたいこと全てを村から発信することはなかなか困難であるが、様々な機会、媒体を捉えて、周知を積極的に図っていく。



本郷 弘義 議員

問 子育て支援策の充実とは

答 子育て環境を整えること

質問 村長が唱えた子育て支援策の充実とはどのようなものなのか。

答弁(村長)

安心して子育てができる環境を整えることが、人口減少対策の最も大事なところ。保護者への財政支援策である給食費の無償化、「こども子育て政策の強化について(試案)」次元の異なる少子化対策の実現に向けて「をもとに、給食費の無償化に向けて給食実施率や保護者の負担軽減と実態を把握しつつ課題の整理を行う。

学力の向上策、通学支援策の再検討など、定住化に向けた子育て支援は大変重要。

再質問

ひとり親家庭の支援策は。

答弁(村長)

財政的に大変な方がある。その支援は、行政として、自助・共助・公助の立場から支援は、惜し

みなく検討したい。また、高校の統廃合により、通学距離が延びている方に対しての支援もやるべきだと、考えている。

意見

本場に困っているひとり親家庭の支援策をしっかりと確立していただきたい。

問 ヤングケアラーの実態は

答 該当する児童生徒はいない

質問

ヤングケアラーの実態調査について、全国調査や福島県の調査が行われたが、本村での実態はどうなっているのか。

答弁(教育長職務代理)

ヤングケアラーの定義は本来、大人が担うと想定されている家事や家庭の世話などを日常的に行っている子供のことである。勉強に励む時間、部活に打ち込む

時間、将来に思いをはせる時間、友人とのたわいない時間など、子供としての時間と引換えに家事や家庭の世話をしている子供のことである。

令和4年に、県のことも未来局が実施した子どもの生活実態に関するアンケート調査は、小学5年生から高校3年生までの全ての児童・生徒を対象とした調査で、児童・生徒自身が無記名により任意回答したものである。

本村における調査結果は、小学5、6年生の47名のうち4名、中学生78名のうち1名が該当者と判定されている。

この調査結果において世話の対象者、頻度、内容により、本人の負担感が異なるため、該当者全員がヤングケアラーであるとは言えない。

児童・生徒の先生方によるとヤングケアラーの例に該当する児童生徒はいない。

再質問

該当者はいないということだが、もし、該当

者がいたとしたら、その方々に対して、村としての対応策というのはあるか。

答弁(教育長職務代理者)

各児童及び家庭の状況を踏まえて、アセスメント、客観的に評価・分析を行った上で、支援の要否を検討していく。不登校等の生徒がいるが、先生が家庭訪問や家庭

の状況を調べたりしている。

意見

ヤングケアラーは不登校になる原因になる場合もある。子供たちが伸び伸びと生活できるような支援策を講じるべき。



のびのびと遊べる環境を



遠藤 貴人 議員

問 どのような子育て支援策を 検討しているか

答 徳の心を磨く教育の強化を図る

質問

市民の期待に応える政策とは。
①学校給食費の無償化以外で、どのような子育て支援策を検討されているか。
②高齢者が自立した生活を送れる環境を整えることは、社会的ニーズとも合致してくる。どのような高齢者用集合住宅の展望をお持ちか。
③まめで達者な村づくりをどのように推進し、

中心地の活性化につなげていくのか。
④農林業の6次産業化について、どのように農産物の価値を上げ、農林業者の経済を豊かにしていくのか。

答弁(村長)

①徳の心を磨くことを基本とした教育の強化を図る。村営塾の開設、県立高校の統合による、通学支援の検討が必要。

再質問

②互いに助け合って集団で生活をする。村外で働く子供が、安心して働ける手助けになる。
③優れた大豆を、今以上に宣伝。良いもの、美しい景観があるところに自然と人は集まり、活性化を図れる。
④国の補助事業を有効に活用する必要があり。山の環境を守り、地権者への利益の還元にもなる。

今回の村長選挙の総括は。

答弁(村長)

定住人口がなくては村の存続はない。それを推進していく。

再質問

7月31日に議員辞職と、マスコミの報道があった。その中で議員辞職が8月17日になった理由は。

答弁(村長)

5月に、東白川町村議長会の会長になった。8月12日に広域圏の議

会があったので、それを全うしてから議員辞職したい。そういう思いで8月17日まで延ばした。

再質問

定数10名ながら、欠員1名で議会運営しなければならぬことを、どう考えているか。

答弁(村長)

村を良くしたい思いがあれば、数が多い少ないは同じ。

再質問

材料費、燃料費の高騰によって、そのコストが給食に転嫁されてはならないと感じているが。

答弁(村長)

食のありがたみは家庭環境の中で教えるもの。感謝は父母が教えること。

再質問

食材の生産者や給食調理員に触れ合ったり、無償化のお金を誰が負担しているのか学ぶなど、複合的に給食費の

答弁(村長)

子どもたちの意見を聞くのも大事。ただ、食育によって、理解は得られる。

答弁(村長)

豆で達者な村づくりをやっている。豆を通して教育も十分にやっていたい。

再質問

古殿小学校の残菜率14%に対し、鮫川小学校の残菜率1.7%。残菜率1.7%を維持していくことが、無償化に併せて、村に課せられた課題と感じているが。

答弁(村長)

数値がもつと下がるように、食のありがたみを指導していく。

再質問

給食費の無償化を大人だけが議論しているが、当事者である小学生や中学生の意見を聞いたのか。



材料費の高騰が給食の質を低下させてはならない

次のページは

議員出席イベント・議員各種研修会・新議長挨拶・新組織体制

インフォメーション

議員も村の各イベントに
出席しています

9月24日

秋季検閲



一糸乱れぬ素晴らしい訓練でした

9月30日

こどもセンター 運動会

元気いっぱい、
最後まで頑張りました



10月21日

中学校 壇の岡祭

全校生徒が協力した
素晴らしい学校祭でした



議員研修会

東京の日経ビルで行われた広報研修会



森広報編集長と窪木副編集長が参加

郡山のビックパレットでの議員研修会



ジャーナリスト岩田公雄氏による講演

議長就任あいさつ



前田 武久

去る9月6日鮫川村第5回議会臨時会において、不肖私、議員各位のご推挙を頂き、議長の要職に就任いたしました。身に余る光栄に存する次第であります。

もとより、浅学菲才の身でありまして、その器でないのですが、身を挺して不偏不党、公正無私を旨とし、言論の府としての議会が円満に運営されること

と、村民重視安心して暮らせる村づくりのため誠心誠意努力する覚悟でありますので、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。結びに、村民皆様のご健勝とご多幸、鮫川村の発展を祈念申し上げます。

議員の異動

去る8月17日、宗田雅之議員より議員辞職願が緑川副議長に提出され、同日受理、許可しました。

議員の辞職に伴い、議会運営委員会、総務文教・産業厚生常任委員会

再度新体制が決定しました!!

議会運営委員会

- 委員長 森 隆之
- 副委員長 青戸 義之
- 委員 本郷 弘義
- 委員 遠藤 貴人
- 委員 緑川 茂

総務文教常任委員会

- 委員長 森 隆之
- 副委員長 遠藤 貴人
- 委員 北條 利雄
- 委員 前田 武久

産業厚生常任委員会

- 委員長 本郷 弘義
- 副委員長 青戸 義之
- 委員 窪木 浩一
- 委員 森田 重男
- 委員 緑川 茂



ふるさと鮫川への想い シリーズ④

我が心の故郷 鮫川村への想い

私は鮫川村の西山に生まれて鮫川中学校を昭和45年3月に卒業、54年の月日が経ってしまいました。最近は何が入り眠りに着く迄、子供時代が懐かしく頭をよぎる日々です。

中学校卒業時、進学者と就職者数は半々で、私は、横浜の叔父のもとへ仮枠大工見習として就職しましたが、昭和48年に陸上自衛隊に入隊し



須藤 勝志 さん

須賀川市在住(西山字岩野草出身)

◆プロフィール

- ・生年月日 昭和29年7月17日
- ・昭和45年3月 鮫川中学校卒業
- ・昭和48年4月 自衛隊入隊
- ・平成14年4月 県立萌世高校入学
- ・平成18年3月 同校卒業
- ・平成20年7月 自衛隊退職



ました。動機は、夜間高校に通学できるとの事でしたが、訓練と勤務に追われる毎日、実現はしませんでした。

その後、隊に残るための昇進試験を受け、運良く福島駐屯地司令の付人に就くことができました。また、各種の試験や教育も受けることもでき、任官、新入隊員の教育、一番厳しい訓練のレンジャー訓練に参加、記章を胸に訓練現場

から離れ、事務室勤務になりました。

隊に勤務中は数々のエピソードがありました。鮫川村の住所に赤坂中野字新宿在り、飲み屋が六本木と言う店が有ると口にしたら白い目で見られた。お袋に送ってもらったイナゴの佃煮を仕事場で休憩時に差し出したら、一斉に大騒ぎになり、暫く誰も話し掛けてくれなくなりました。

皆さんは、札幌の雪まつりをご存じと思いますが、当時会場は大通公園、中之島、真駒内駐屯地と3会場あり、大雪像は自衛隊担当でした。期間中最も厄介なのが気温の上昇です。雪像維持のためには低温であることが必要で、時には意に反し予報以上に気温が上昇する場合もあり、観客が入る前に、補修が必要になる場合もあります。そんな時は、師団幕僚長が大声を上げ廊下を飛んでくるのです。

冬季の雪かき作業は、日に5回ほどでした。雪は、軽く扱いやすいのですが、外に出る際は完全防寒着です。最低温度の体験は、マイナス25度の上富良野演習場のことでした。風呂上がりの絞ったタオルが、帰りに棒状に直立し手から離れず、しばらくストーブの脇で静かに離れるのを待ちました。また、真駒内での生活は、家族に大変な負担をかけました。当初は知り合いが

なく、私が訓練や演習等で長期不在間に、子供が熱を出したり、体調不良時のごときか、本当に感謝しておりました。

数年後、希望した郡山駐屯地に着任しましたが、高校進学をあきらめられず、上官に無理をお願いし、48歳で福島県立萌世高校に入学、52歳で卒業しました。息子より若い同級生に囲まれ晴れやかな気持ちで、卒業証書を手にしたときは、万感胸迫る思いでした。在隊35年で定年を迎えました。現在は福島県林業研究センターで運転手兼用務員として、日々環境整備に汗を流し、充実した生活をしております。

子供は男の子2人で、横須賀市の武山に在る陸上自衛隊高等工科学校に入校(当時は少年工科学校)、現在長男は岩手駐屯地に、次男は郡山駐屯地でお世話になっております。

私は、郡山の勤務地に近い、ここ旧岩瀬村(現賀川市)に庵を構えて早や約28年が経ちました。私の家は全てが鮫川村産です。実家の山林から木材を切り、親戚の方々に搬出をしてもらい、大工さんなど職人さんは、鮫川村から毎日通って建築に携わって頂きました。今でも感謝しております。

岩野草に生まれ、一番多感な時期を集落の皆さんに見

守られながら過ごせた事に、感謝の一言しかありません。こんな故郷、鮫川村が私は大好きです。これからも鮫川村の良い所を残して頂き、村民の皆様が住みやすい環境で過ごせる様、村民一丸で活気溢れる鮫川村を合言葉に頑張る姿を応援致しております。



予備自衛官任期満了記念 郡山駐屯地にて平成29年10月14日(任期満了)

編集後記

異常な暑さが9月末まで続き、10月から急に平年並みの気候になり、体調の管理が難しいです。また、控えていた行事等も少しずつ復活しつつ賑わいが戻ってきているようです。食欲の秋ではありますが、暴饮暴食を避けて、健康管理に留意し健康寿命を延ばしましょう。

(広報編集委員)